

# 研修員's VOICE

Vol. 18

世界各国からJICA沖縄にやって来た  
研修員を紹介しています。



出典:外務省HP



研修コースの仲間と（前列左端がボボさん）

氏名: Mr. NZOBONIMPA Jean Bosco

国名: ブルンジ共和国 (ボボさん)

研修期間: 2018年8月29日 ~ 2018年10月6日

コース名: 公衆衛生活動による母子保健強化(A)



## ブルンジってどんな国ですか？

東アフリカ内陸部に位置し、北はルワンダ、東はタンザニア、西はコンゴ民主共和国と国境を接しています。人口約1,050万人、面積2.78万km<sup>2</sup>（四国の1.5倍）、赤道直下にあります。国土の大部分が高原で年間平均気温は20℃と穏やかです。

ブルンジのおすすめは何と言ってもブルンジ王立太鼓隊（The drummers of Burundi）です。太鼓の響きに舞踊、勇敢な詩、伝統的な歌を組み合わせた演舞は、ユネスコの無形文化遺産にも登録されています。



出典:外務省HP

国旗の色、赤と緑の衣装をまとった太鼓隊

## どんな研修をしていますか？

ブルンジは妊産婦、新生児、乳幼児の死亡率がアフリカ諸国の中でも高く、母子保健の改善が急務です。適切な人材や医療機器の不足、研究活動のモニタリング/評価システムなどに課題があります。

今回の研修では、日本や沖縄の保健システムの機能や変遷、行政による保健サービスを通じた住民の健康促進、感染症の根絶手法等を学んでいます。帰国後は日本の優れた保健やガバナンスを同僚と共有し、母親や乳幼児、思春期の青少年向けの行動計画を強化していきたいと思えます。



ブルンジの病院

## 日本での生活はどうでしたか？

日本では、研修コースの仲間やスタッフと充実した毎日を送っています。余暇に参加した笑いヨガのクラス（Laughter Yoga）は、ユーモア、スポーツ、リラクゼーションを兼ねており、とても楽しかったです。

また、日本は清潔で、時間を尊重する国だと感じました。特に沖縄は歴史の中で困難な時代もありましたが、より良い政治や人々の力で発展したのだと思います。今後も日本と協力し、ブルンジの母子保健や青少年のリプロダクティブヘルス活動を強化していきたいです。



船浦中学校（西表）でブルンジの紹介をしました

持続可能な開発目標（SDGs）とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。